

赤煉瓦倶楽部舞鶴									
新 2号									
会報 116号 令和3年 11月 15日									
「赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ http://www.redbrick.jp/									
赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報									
発行人／会長 吉岡 博之									
編集人／理事 小野 章									
事務所／〒625-0062 舞鶴市森 973 番地の 1									
FAX/0773-63-9764									
E-mail brick7388@yahoo.co.jp									

1. 「赤煉瓦倶楽部舞鶴発足30年記念展」開催報告

理事・顧問 馬場英男

1991（平成3）年6月1日発足の「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」は、舞鶴市に残る明治・大正・昭和の赤煉瓦建造物を保存し後世に引き継ぎ、「赤煉瓦を活かしたまちづくり」に関する事業を行い、また、赤煉瓦に縁のある都市とのネットワークを図り、保存活動を支援する活動を行うことを目的として長年活動を継続してきました。その間、社会全体の利益の増進に寄与することを目的に加えるため2000（平成12）年8月9日に京都府よりNPO法人認証を受け、その後2006年より舞鶴市より赤煉瓦施設の指定管理者として6年間管理運営を受託したところです。

当会と舞鶴市との協働による成果は、皆さまご承知の通り、1993年「舞鶴市立赤れんが博物館」（現1号棟）、1994年「舞鶴市政記念館」（現2号棟）、2007年「まいづる智恵蔵」（現3号棟）、4号棟・5号棟を改修し2012（平成）年5月19日「舞鶴赤れんがパーク」オープンとして結実し、今日では多くの観

光客で賑わいを見せています。更に、舞鶴市では残る北吸赤煉瓦倉庫群3棟の活用を図るべく検討が進められています。

昨年度末に、皆様にご承認いただいたように、NPO法人を解散し、発足当時の任意団体に戻り活動を継続しています。

今年は、倶楽部発足以来30年目を迎える事から、その記念展を開催いたしましたので、以下の通りご報告します。

「赤煉瓦倶楽部舞鶴発足30年記念展」

会期：令和3年10月22日（金）～26日（火）9:00～17:00

会場：アールスペース973（舞鶴市森973-1/新事務所）

展示内容：①受賞報告 ②主な活動報告写真 ③発行・寄稿した冊子、ポスター等の展示 ④縁の煉瓦展示 ⑤活動で使ったパネル・看板の展示 ⑥ビデオ放映（赤煉瓦ジャズ祭、赤煉瓦シンポジウムほか）

以下、展示内容を写真にてご報告します。

① 受賞報告 表彰状・トロフィー・盾の展示



表彰状・感謝状14点、トロフィー2点、盾7点

表彰状・感謝状履歴 ◆1993.11.6「感謝状・赤れんが博物館開館貢献／舞鶴市」◆1994.5.28「産業考古学会保存功労賞／産業考古学会」◆2009.12.5「表彰状・舞鶴まちづくりデザイン賞／舞鶴市長」◆2001.5.19「表彰状・文化賞／舞鶴ユネスコ協会」◆2002.6.24「表彰状・まちづくり月間賞／国土交通大臣」◆2003.5.27「表彰状・市制施行60周年功労／舞鶴市」◆2003.10.3「都市景観賞／国土交通大臣」◆2004.6.18「表彰状・京都府開府記念日／京都府」◆2010.6.29「ティファニー財団賞・伝統文化振興賞／ティファニー

財団) ◆2010. 12.吉日「感謝状／舞鶴市」◆2011.10.9「表彰状・自治体学会田村明まちづくり賞／自治体学会」◆2012.10.1「感謝状・東日本大震災募金／日本ナショナルトラスト」◆2013.3.18「表彰状・市制施行70周年功労／舞鶴市」◆2014.9.11「表彰状・京都創造者賞／京都創造者大賞顕彰委員会・京都府・京都市・京都商工会議所」◆2014.12.10「日本イコモス賞2016・赤煉瓦を活かした一連のまちづくり／日本イコモス国内委員会」

② 主な活動報告写真の展示



③ 発行・寄稿した冊子、ポスター等の展示



④ 縁の煉瓦展示



アメリカ ニューオリンズ・フレンチクォーターの煉瓦



舞鶴で使用煉瓦。左より、T刻印（東播磨業製）、井刻印（貝塚煉瓦会社製）

⑤活動で使したパネル・看板の展示



各種イベント時に使用した倶楽部PRパネル



平成20年舞鶴市作成「舞鶴赤れんがアートスクール構想」環境整備/パース

⑥ ビデオ放映（赤煉瓦ジャズ祭、赤煉瓦シンポジウムほか）



20回開催の「赤煉瓦ジャズ祭」や、1990年開催の伝説の「第1回赤煉瓦シンポジウムIN まいづる」映像を放映しました。

2. 舞鶴海軍鎮守府開庁120年記念

「海軍時代の舞鶴古写真展(その1)～海軍機関学校とその時代～」開催報告

理事・顧問 馬場英男

明治34(1901)年10月1日、日本海側唯一の鎮守府として、舞鶴鎮守府が開庁した。横須賀(明治17年)、呉・佐世保(明治22年)の開庁の同年に舞鶴に鎮守府が置かれることが決定した。日清戦争で得た賠償金を元に、ロシア帝国に対する日本海側の防備と日本海軍の弾丸・食料等の補給、兵器・艦船の整備を行うために、明治29年5月23日に舞鶴に臨時海軍建築支部が設置され34年開庁後廃止されたが、開庁に向け突貫工事で陸海軍施設と市街地整備が行われた。イギリス等西洋の技術を学んだ建築技師延べ20名が、軍需施設・造船所・病院・各庁舎等の建築に従事した。建物の中、弾丸・兵器・火薬を扱う施設では、火に強い鉄骨と赤煉瓦で建造され、堅固さゆえに現在まで残ったのはご承知の通りである。

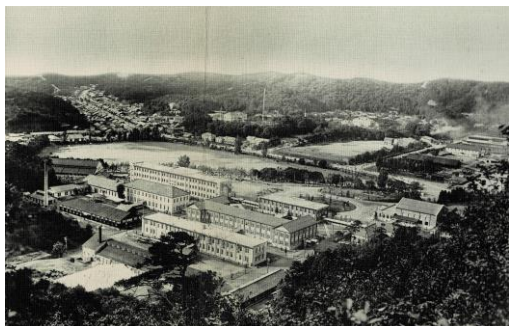
さて本年4月から新組織・体制で活動を進めているが、新しい取り組みとして旧軍港施設として建てられた赤煉瓦建物に関わる時代の変遷を取り上げ、多くの市民に見ていただき、赤煉瓦建物への更なる理解を深める古写真展を開催することを理事会で決定した。

今回最初の古写真展として、表題のとおり、「海軍時代の舞鶴古写真展」(その1)とし、現海上自衛隊舞鶴地方総監部(舞鶴市余部下)の使用する施設の当初の使用者である「海軍機関学校」を取り上げる事とした。旧軍時代に建てられた赤煉瓦建造物は多岐にわたるため、今後シリーズ化して開催する予定である。

会期：令和3年10月1日(金)～7日(木) 10:00～17:00
会場：アトスペース973 (新事務所)

ここで、海軍機関学校の舞鶴移転に触れると、もとは明治6年に東京築地の海軍兵学校に蒸気機関科が設置されたのが始まりである。横須賀の海軍兵学校・横須賀造船所学舎に移転し明治14年に海軍兵学校から独立し海軍機関学校となる。大正11年に舞鶴鎮守府の廃止決定、舞鶴海兵団を廃止。大正12年関東大震災で横須賀の学校施設を焼失。大正13年海軍機関学校生徒科の舞鶴移転を決定、翌年、舞鶴要港部病院で授業開始。昭和2年海軍機関学校の舞鶴への永久的移転を決定。昭和3年旧舞鶴海兵団跡地に新校舎の建設開始。昭和5年主要庁舎完工。昭和19年海軍機関学校廃止、海軍兵学校舞鶴分校に改組。昭和20年敗戦後、米陸軍歩兵第133連隊が進駐(キャンプ舞鶴)。昭和30年海上自衛隊舞鶴地方総監部開庁、キャンプ舞鶴廃止。昭和32年舞鶴地方総監部、舞鶴水交社跡から旧海軍兵学校舞鶴分校へ移転。現在に至る。

(参考文献：金澤裕之・伊藤 綾共著「旧海軍機関学校庁舎の建築史的意義」、中島久男著「明治期における海軍省営繕事業の歴史的研究」)



昭和8-9年当時の海軍機関学校 全景



昭和9-13年当時の海軍機関学校を海軍工廠側から望む（手前先駆競争前か）



昭和8年完成当時の海軍機関学校「大講堂」



敗戦後米陸軍進駐「キャンプ舞鶴」時に白ペンキで塗替



海上自衛隊により当初の外観に再現



昭和5年完成庁舎 昭和18年53期卒業式当時



米陸軍「キャンプ舞鶴」時に白ペンキで塗替



平成14年に海上自衛隊当初の外観に再現



ペールに包まれていた海軍施設、「祖父が卒業、当時の様子が解って良かった」「舞鶴の埠頭の写真を見て勉強になった」など関心の高さを実感しました。

3. その他

事務局

編集後記 今号は当倶楽部の30周年記念展と海軍機関学校古写真展の特集ですが、編集は両展示の制作に取り組まれた馬場顧問にお願いすることしました。コロナ禍も下火に向かう中、予想以上の参観者がありましたが、ご覧になれなかった皆様には、写真豊富な紙面で展示の様子や内容を感じ取っていただけたら幸いです。

法人目的（要旨）：赤煉瓦を活かしたまちづくり活動、赤煉瓦ネットワーク交流と他市のまちづくり支援等。

会員の資格：会費納入者 年会費（個人1,000円、団体5,000円）。ご寄附も受け付けます。

振込先：①ゆうちょ銀行 四四ノ店（ヨンヨンハチ店）普通 3679505 口座名義 アカレنگクラブマイツル
又は ②京都北都信用金庫 舞鶴中央支店 口座番号 0686767 口座名義 アカレنگクラブマイツル

